

環境心理生理運営委員会 議事録 2013 年度 第 1 回

文責 辻村

- A. 【日 時】 2013 年 5 月 31 日 金曜日 (17:30～19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、合掌頭(幹事)、辻村壮平(幹事)、
大井尚行、大石洋之、小島隆矢、土田義郎、長野和雄、
西名大作、榎究、宗方淳
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2012 年度 第 4 回環境心理生理運営委員会議事録(案)
2013 年度 第 1 回環境心理生理運営委員会議事次第
2013 年度 第 1 回環境工学委員会資料抜粋
※2013 年度より、資料に関しては印刷物ではなく
オンラインストレージサービス機能を用いてデータで配布している。

E. 【報告事項】

1. 2012 年度 第 4 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

前回議事録(案)の確認を行った。記載内容について修正に関する指摘・意見が特になかったため、正式な議事録として承認された。

2. 本運営委員会の委員構成の変更(幹事の変更及び委員の追加)

2013 年度より、幹事が榎委員から合掌委員へと変わり、合掌委員と辻村の幹事 2 名の体制となった。また、本運営委員会傘下の心理生理のフロンティア小委員会の主査を務められている土田委員が、本運営委員会の委員として新たに加わったことを松原主査が報告された。

3. 予算へのポイントにおける出版物の扱いについて

2011 年 3 月出版の「調査のデザイン」は 2012 年の出版実績としてカウントされる(2014 年度の予算に反映) こととなり、「建築環境心理生理用語集 [和英・英和]」は 2013 年 4 月出版のため、2013 年の出版実績として扱われる(2015 年度の予算に反映) ことが、大井委員が説明された。結果的に、本運営委員会の当初の目標通り、「1 年に 1 冊」のペースで出版できていることになっている。

4. 2013 年度 第 1 回環境工学委員会の報告

第 1 回環境工学委員会の内容に関して、特に本運営委員会に関連の深い事項について松原主査から報告があった。

■ 予算配分について

2013 年度より、運営委員会および各小委員会の予算は 10% 程度引かれている。この引かれた金額については、学会内で留保しており、12 月に再配分を申請できる可能性があることを大井先生が説明された。これについては、辻村が事務局に確認をすることになった。

■ 2014 年度大会(近畿)について

2014 年度大会は神戸大学で開催されることに決まった。日時については、9 月上旬～

中旬ということまで決まっている。

■ シンポジウム等の実施計画書の間接経費

シンポジウム等の開催を計画する際には実施計画書を提出するが、2013 年度より、これまで 10 %であった間接経費を 15 %として申請しなければならない。なお、シンポジウムの収入はこの 10 年で 45 %程度減少している。

■ 旅費の支出に必要な書類

2013 年度より、旅費を支出する場合、旅費の証憑の提出が義務となった。

■ 委員会資料の PDF 化とオンラインストレージサービス機能

本年度より環境工学委員会においても紙媒体の委員会資料は配布されず、PDF 形式のデータで運営委員会主査に配布されるように変わった。本運営委員会では環境工学委員会資料をプロジェクターでスクリーンに投影し、その画面を閲覧しながら報告・議論が進められたが、その中でいくつかの問題点や要望が挙がった。以下に問題点・要望をまとめる。

- ・ PDF 形式では書き込めないで、委員会資料は Word ファイルが望ましい。
- ・ 環境工学委員会資料は目次から目的のページにすぐに切り替わられるように、リンク（アンカー）を付けてほしい。
- ・ 運営委員会で環境工学委員会資料を参照する場合、目次は「NO.」ではなくページ番号で紹介してほしい。
- ・ 環境工学委員会資料のレイアウトは横書きの方がよい。
- ・ データで閲覧する場合、会議室に高解像度のプロジェクターを設置してほしい。

また、委員会資料のデータによる事前配信に関連して、オンラインストレージサービス機能に関する意見・要望も挙がった。

- ・ 各小委員会の議事録や資料を他の委員会の委員も見られるようにしてほしい。
- ・ 委員会のオブザーバー等もオンラインストレージサービス機能を使用してデータを閲覧できることが望ましい。
- ・ WG のフォルダを事務局で作ってもらえないか。

■ 建築学会大会の若手表彰（発表賞）の設立（案）

環境工学委員会で、建築学会大会において学生講演賞（仮）などの若手を表彰する仕組みを作る方針が提案された。この背景として、年代別の大会発表申し込みは大学院生を中心とした 20 代の発表が多いが、これらの発表者が学会に定着していないことが説明された。各運営委員会で大会発表を対象にした若手表彰の設立を（開始時期、表彰の対象者、審査方法、審査委員など評価の枠組みなども含めて）検討しなければならず、6 月までに意見をまとめなければならない。

■ 日本建築学賞（論文）の受賞者

佐土原聡先生と中村芳樹先生が受賞され、2013 年度大会で記念講演がある。

■ 2013 年度大会の研究協議会及び研究懇談会

- ・ 研究協議会：「異分野からの視点を活かす建築環境工学一人材育成と地域課題解決に向けた連携のすがたー」
- ・ 研究懇談会：「U-40 が語る環境工学研究の最前線と分野連携ーこれから 20 年のビジ

ョナー」

■ 東日本大震災関連 WG の進捗状況報告

東日本大震災合同調査報告書の編集委員である榎委員から進捗状況が報告された。榎委員が第7章を担当することになっており、5月9日に開催されたWGで第7章の原稿の提出は済ませたことを報告された。年度内には報告書は仕上がり、査読者の候補として大井委員が挙げられている。

■ 環境工学委員会のメルマガ配信の運用ルール

メルマガ配信の運用ルールとしては催し物の開催30日前までに1回配信するというルールになっているが、参加者が集まらない場合においては要求があれば2回目を配信している場合もある。これについては運用のルールを明文化する必要がある。

■ 第27回環境工学連合講演会の企画

2014年4月中の2日間で、第27回環境工学連合講演会が企画されている。本年度に開催された第26回では宗方委員が講演された。

■ 第13回環境心理生理チュートリアルの実施計画書の承認

2013年9月13日に、第13回環境心理生理チュートリアルを開催することが環境工学委員会で承認された。

■ 早稲田大学学際シンポジウム「東日本大震災と人間科学」の実施計画書の承認

2013年3月13日に開催された学際シンポジウム（本運営委員会主催）が開催された。

5. 各小委員会の活動報告

各小委員会の活動をそれぞれの主査が報告した。

○ 環境心理小委員会（主査：榎委員）

傘下には3つのWGを設置し、それぞれのWGの活動を本小委員会でとりまとめている。本小委員会は6月20日に第1回委員会を開催予定である。チュートリアル運営WG（主査：辻村）については4月24日にWGを開催し、実施計画書の作成にあたっている。環境心理研究手法WGについては開催時期等を検討中である。かわいい空間研究会WGに関しては、第1回を5月27日に開催し、年に4回電子版冊子を出す予定となった。

かわいい空間研究会WGの名称については、本委員会より検討の要請があった。

○ 持続性社会の環境心理小委員会（主査：宗方委員）

第1回小委員会を5月24日に開催し、ブレインストーミングにより持続性社会のために環境心理的知見が必要な分野や課題の抽出、関連する研究知見の収集と整理、全体のフレームワークの構築などを議論した。第2回は7月に開催の予定である。

○ 心理生理のフロンティア小委員会（主査：土田委員）

前年度の段階で（2013年3月30日に）活動方針とスケジュールについて一度議論しており、本年度第1回委員会は6月15日に開催する予定である。人間の感覚・知覚的研究に基づいた多様な研究成果を建築設計やまちづくりなどへ反映させることを目指し、半公募型シンポジウムの開催や、初学者向けの研究手法に関する研究会・シンポジウムなどの開催を考えている。これらの実施にあたってはチュートリアル運営WGと交流しながら進めていく。

○ 感覚・知覚心理研究刊行小委員会（主査：西名委員）

第1回は6月15日に心理生理のフロンティア小委員会と同時開催を予定している。前身の感覚・知覚心理小委員会でこれまでに実施してきたシンポジウムの資料をまとめ、成書として刊行することを目的に、進め方の議論など今後の活動内容について議論する。

F. 【審議事項】

1. 大会 OS の採否の審査方法について

大会 OS への採否の審査方法の在り方などを議論した。これまでは関連する小委員会（OS を提案した小委員会）で委員会開催時の出席者が審議し、報告していたが、今後は OS 企画時に審査者及び審査方法を決めておけばよいという意見が挙がり、そのようにまとまった。また、運営委員会から OS 投稿者に対して採否結果を通知して欲しいという意見が挙がり、これに対しては ML で周知するという案が挙がり、ひとまずそのように対応することに決まった。

2. 建築学会大会の若手表彰設立の検討

大会発表での若手表彰（発表賞）の設立に関して議論を行った。検討しなければならない項目としては、実施時期、選考方法、受賞対象者の範囲などがあり、既に実施されている支部（北陸支部では発表会場で座長以外に選考担当が一人つく、九州支部では年齢制限を設けていないなど）や他学会の講演発表会などで学生を対象とした賞の状況が報告された。これらを踏まえ、「今年度、試験的に実施してみてもどうか」や「各セッションの座長が最も良い発表であった研究を推薦する」など、様々な意見が挙がったが、議論が収束しなかったため、今後、1~2週間でメールにて審議することに決まった。

3. 建築環境心理生理用語集の出版の報告

大井委員から建築環境心理生理用語集が出版されたという報告があり、出版に協力を仰いだ委員への御礼を述べられた。今後、改訂することも視野にいれ、ご意見があれば随時大井委員に連絡するようお願いされた。今後は用語集の出版に関連付けたシンポジウムなどの企画も検討している。

4. 環境心理生理運営委員会の HP に関して

幹事の辻村が本運営委員会 HP を管理しており、5月27日にページの更新を行った。

G. 【次回の開催日程】

松原主査の発信でメール会議により決定する。